

審議会等会議録

審議会等の名称	第3回甲州市総合計画審議会
開催日時	平成24年11月2日（金）19:00～21:00
開催場所	甲州市役所本庁舎第一会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	石田道子、岡部富永、萱原春美、坂野さおり、篠田聡、志村功、鷹野勝己、辻武彦、中井道夫、中村功、中村道子、日原健次、樋山太一、古屋佳江（14人） 〔敬称略・五十音順〕
事務局	政策秘書課：菊島課長、中村課長補佐、飯島副主査
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 会長あいさつ 2 甲州市総合計画前期計画の評価結果の報告等（事務局説明） <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換 3 甲州市まちづくりアンケート調査結果の報告 <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換
内容	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会長あいさつ <ul style="list-style-type: none"> ○ 会長 次第に従いまして議事を進めて参ります。皆様のご協力をよろしくお願い致します。本日は総合計画前期計画の評価結果の報告、まちづくりアンケート調査の結果報告の2つが議題となっております。前期計画の評価結果の報告について、事務局より説明をお願い致します。 2 前期計画評価結果の報告等 <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務局 （資料4、第1次総合計画成果指標評価調書一覧について説明。）資料全般において、課によって考え方の違うところも見受けられる。内容について、ご意見ご指摘を頂ければと思う。 ○ 会長 事務局から説明のあった成果指標についてご意見賜りたい。 ○ 委員 指標で把握出来ないものを指標として設定しているものが説明の中に何点かあった。まったく把握出来ないものを設定し、何を評価するのか。把握出来ないものを設定していること自体が間違いではないか、という点が一つ。文化協会の登録数云々とあるが、実際の活動をしていても文化協会に入っていない団体というものもある。私の入っている団体も文化協会には入っていないと聞いている。文化協会に入っていない団体を市はリサーチしているのかという点が二つ目。また、市民活動の登録団体の定義とはどういったものか。以上3点伺いたい。 ○ 事務局 ご指摘のとおりである。平成18年、20年に初めて設定したもの

で、当時の職員も成果指標がどういうものかをはっきり理解していなかったのが一番の要因に思う。成果指標と話をさせて頂いたが、「成果」と言い切れない部分がある。「指標」という認識をしている。今回の見直しの際には設定できるものを指標として検討する。

また、文化協会に入っていない団体もあるというご指摘だが、確かに文化協会だけでなく独自に活動をしている団体もある。登録はしていないが、分類するとそこに入る活動団体もあろうかと思う。生涯学習課でそこまでを把握をしていないと思うので、今後把握をしていきたいと思う。

市民活動の登録団体については、市民生活課の市民協働の担当事務である。NPO法人や法人にならなくても市民団体として活動している団体があるが、市に団体として登録をして頂くと、様々な情報の提供をすることが出来る。色々な団体があり、登録まではしないということはあるが、積極的な把握をする活動が大切と考え、啓蒙活動に力を入れて参りたい。

- 会長 他にご意見はございますか。
- 委員 男女参画について、人事異動で担当が全員替わったが、誰か一人でも残して頂けると前々からやってきた実績、そして活動がスムーズに行くように思う。全員替わったことで推進委員の活動は厳しいものがあつた。人事は一つ間違えるとやりにくくなる。目には見えないが、メンタルの部分が活動へのエネルギーにもなる。後々に繋がり、速やかに進むような人事をして頂ければ有り難い。
- 会長 質問と言うより意見ではありますが、事務局のコメントはありますか。
- 事務局 人事は総務課で行っている。只今のご意見は他の市民の方、市議会、委員会等でも同様のご指摘を受けているところである。たまたまではあるが、健康を害したということによって一人が異動対象となると、何人かが人事異動で動かなければならない場合がある。今年は組織機構の見直しを行っている。これまでの反省点を活かし、ベテラン、新入職員等のバランスを考慮し、職員の配置には十分配慮し行うのでご理解を頂きたい。
- 会長 他にご意見はございますか。
- 委員 総合計画の成果指標はいずれ審議会の中に見直しをしたものが出て来るのか。指標として見られない部分は見直しをして入れ替えるのか。この指標は目標と関連付けないと意味がないように思う。
- 事務局 総合計画は中間の年になるので整理をする予定である。ただ、この

審議会に説明するまでは間に合わない。整理した指標を何らかの形でお示ししたい。(指標として見られない部分は見直しをして) 入れ替えるのかという点だが、指標を入れ替えることは今のところ考えていない。新しいものを作る時に反省点を活かし、より分かりやすく説明出来るものに整理をさせて頂く。目標と関連付けることだが、今回の評価の仕方が目標値に対してどうだったかという手法なので、的確なお答えになるか分からないが、その点を反省として活かし、見直しを行っていくのでご理解を頂きたい。

- 委員 資料3について私なりの解釈をすると、事務事業を一生懸命やった結果を成果指標で表しているものと受け取れる。事務事業はほとんどがA評価、担当も課長もそう評価をしている。ところが資料4の成果指標はC評価D評価と沢山ある。事務事業そのものの成果指標が正しいとすると、事務事業で職員がやっている仕事が間違っているという見方と、事務事業は良いがそれを評価する手法が間違っているという見方、この2つの見方が出来る。また、目標値が高過ぎてなかなか達しないもの、楽々達成できる目標を設定しA評価としているものとある。これらをきちんと設定しないとやっている方も見ている方も何となくぼやけてしまう。職員が一生懸命やっている事務事業が間違ったことをやっているとは思ってはいない。きちんと評価できる成果指標を議論して決めたら良い。
- 会長 事務局で何かコメントはありますか。
- 事務局 貴重なご意見ありがとうございます。2通りの見方があるということだが、実際に事務事業評価は事務事業評価、指標は指標で評価をしてしまっている。事務事業評価、施策評価、総合計画、行政改革は一体で見る形にしないといけない。そうでないと、事務事業は事務事業、総合計画は総合計画と、それぞれの評価がそれぞれの評価になってしまう。今回の見直しではきちんと整理をして行きたい。行革の委員会でも同様のご意見を頂いている。総合計画の審議会と一緒に会議を持てたらと言うご意見もあった。きちんと評価できるようにやっていきたいと思っている。職員については、日々の仕事は忙しく対応しており、慣れない面もあり、現状の仕事を優先しがちで評価事務を余計な仕事と捉えることもある。高過ぎる目標は見直し、容易く達成出来る目標には負荷をかけ調整していくようにして参りたい。
- 委員 (資料4) 11ページの生涯学習、一人当たりの貸出冊数について。読みたい本がある際に図書館に行くが、タイムリーな本がないことが多い。各図書館には予算枠があり、図書選定委員も居るかと思うが、図書の備品購入費を上げて欲しい。定期的に図書を購入するのも良いが、タイムリーに柔軟性を買えるシステムにしてもらいたい。取り組み内容の説明では本当に本

を借りて読みたい人たちに応えていないように思う。担当課ではないと思うが、意見として伝えて欲しい。

- 事務局 今のご意見については、図書館の職員自体も同じことを言っている。予算が増えれば希望に応えられると。ベストセラーといったものを揃えるなら、10冊なり入荷して回転させれば良いが、今の状況だとそういう訳にもいかない。小さい自治体であれば一つに図書館を集約できるが、合併すると元々の予算の配分もあり、なかなかタイムリーな対応を取れず、職員も歯がゆい思いをしている。予算の話をする市民の皆さんに申し訳ないが、今ある予算の中で司書も頑張っている。出来るだけご意見に沿えるよう努力をし、利用者の立場で行いたいと思う。予算面で厳しいところはあるが、職員も頑張っているのご意見はお伝えする。
- 委員 (資料4) 9ページの消防・防災の関係で、普段から災害に備えている人の割合がどこまでを指すのか。その範囲について当局で分かれば教えてもらいたい。
- 事務局 そこまで把握をしていないので、担当に確認をし、後日の会議で回答したい。
- 会長 平成18年度は(普段から災害に備えている人の割合が)42%とあるが、それ以降はアンケートを行っていないのか。
- 事務局 まちづくりアンケート内で実施しており、55.6%の方が備えていると回答した。ただ、「災害に備えている」というのが水を1本備えているのを言うのか、災害時の家族の待ち合わせ場所を決めているところまで言うのか、範囲がまちまちである。
- 委員 平成18年度の数字に42%とあるが、とても実績にはそんな数字は出こない。住宅用火災警報器も本来は何箇所か付けるべきだが、1個でも取り付けてあれば設置済と捉える。それと同じことではないかと思う。
- 会長 他にご意見はございますか。
- 委員 資料4を見ると、担当課毎の目標になっている。先日も大藤小の児童が交通事故に遭ったが、(資料4)9ページの交通安全・防犯、2ページの雇用・勤労者福祉のシルバー人材センターの登録者数を関連付け、子ども達の登下校時の防犯対策にシルバー人材を活用した見守る体制を整えるなど、枠を越えた体制を甲州市では取れないものか。

3 まちづくりアンケート調査結果の方向

・意見交換

- 事務局 課と課の間の事務分掌に重要事項があるのはご指摘のとおりである。課題が出た場合には政策秘書課が間に入り調整を行っている。行政は縦割りで、予算配分毎のやり方をしている。子育てに関しては子育て対策課中心だがそれだけではなく、健康増進課にまたがることもある。DVで子供も巻き込むということであれば男女共同参画も関係し、一つの課では完結しないことが多い。ご指摘はそのとおりであり、完璧ではないが取り組んで参りたい。
- 会長 他の項目で何かございますか。
- 委員 公民館に図書室があるが、ご存知のとおり予算はゼロに近い状態でやっている。図書も寄付をしてもらったり、館長自ら買ったりすることが多い。図書館が夜9時頃までやるという話があるが、大変人気があるとのことである。図書館も本の入れ替えあるかと思うが、そうした本を公民館に回してもらえるのかどうか。年度毎に廃棄処理をする図書もあろうから、処分をするのではもったいない。検討して頂きたい。
- 事務局 はっきりした回答は図書館の担当に聞かないと出来ない。業務上知り得た範囲であれば、可能ではないかと思う。回転していない図書は古い資料も合わせて廃棄される。図書館にも蔵書数があるので、全部が全部を蔵書出来ない。担当に話をし、またお答えをさせて頂く。夜9時までやるという話があったが、甲州市の図書館は夜7時まで。他の自治体に比べれば頑張っている方ではある。
- 会長 市民アンケートについても色々な項目がある。そちらの事務局に説明して頂いた上でまたご意見を伺いたい。
- 事務局 (甲州市総合計画策定のためのまちづくりアンケート調査結果報告書について説明。)
- 会長 概要的な説明でありましたが、地域毎の特長が表れている結果だと思います。何かご意見ご質問はございますか。
- 委員 前回のアンケート配布数が2,000なのに対し、今回はなぜ1,000枚か。人口35,000の都市に対して少ないのではないか。大和地域の意見にばらつきがあるのも回答者数が少ないからだと思う。アンケートのより良い手法があったのではないか。
- 事務局 単純に見直しということで、景観計画のアンケートも同様に1,000

枚だったもので、同数字で実施をした。1,000 枚で実施すれば傾向としては捉えられるという専門家の意見も頂いていた。ただ、今のご意見のように、前回実施した 2,000 という数字で比較をするのであれば、手間は掛かるが同数字で行った方が良かったのかとも思う。比較も同じ条件で出来たと思うので、より明確な比較になった。その点は反省点である。社会動向の調査では人口統計手法のやり方の指針もあるが、それを見ても 2,000 が適当であったのかとは思ふ。ただ、前はコンサルを入れて行ったが、今回は自前で実施し、金額も抑えている。大和地域に関しては実際出向き、直接ご意見お伺いしたいと思う。

- 委員 (アンケート) 10 ページについて。甲州市へ住み続けたいという意見がほとんどで良かったと思うが、住みたくないが 13% 程ある。仕事がない等の理由かと思えば、日常の買い物が不便とある。昔は近くに商店が沢山あって生活に不便がなかったが、大型店が出て自転車や車でないと行けないということで、年輩の方が (住みたくない) 意見を持っているかと思いきや、そう思っているのは 30 歳代が一番多い。この辺りはどういった分析をすれば良いのか。
- 事務局 自由記述欄を整理して読み込むと、若い方は大型のショッピングセンターがあって、買い物が出来て何でも買えるのを利便性が高いと感じる。年輩の方は車で行けないから近所に小売店が必要だと言う。30 歳代の若者は年輩の方とは発想が逆のようである。
- 委員 大型店が進出してくる時は行政当局も単に近所の店が売れなくなるという発想だけではなく、年輩の人のことを考え、魚屋や豆腐屋が自活できるようにということかと思ったがそうではないようだ。
- 事務局 自分が買いたい店、欲しいブランドがあることを重視している。利便性があり、流行りがあり、賑やかで楽しいところを若者は求めているがそれだけが良いとも一概には言えない。大型店舗は県外資本であり、流行り廃りで居なくなっても痛みはないが、働く人の雇用の問題は当然ある。昔ながらの小さい商店があることでお年寄りにとっては利便性もあり、地域も活気が出る。それが地域を守ることに繋がる。難しい問題である。
- 委員 (アンケート) 82 ページに書いてある市政への関心について、男性の方が女性よりも関心が高いということで、女性として少し恥ずかしく思う。色々な審議会に参加させてもらっているが、男性優位で男性人数の方が多いように思う。出席するだけでも大変意味があり、関心を持つためにも女性比率を多くして欲しい。審議会で女性一人はで気恥ずかしくて思うことも言え

ないことがある。市としても委員を選定する際に是非考慮してもらいたい。

- 会長 男女共同参画の面でも言えることだが、審議会を行う際に男女の比率をどのようにして決めているのか。
- 事務局 審議会での女性比率は3割を切らないように決め事もしている。本来は五分五分になるのが理想である。題材によっては男女と言うよりも適任かどうかということもある。出来るだけ女性に参加して頂けるように機会を多く作って行きたい。
- 委員 (アンケート) 37ページの項目、まちづくりで重視する項目は前回のものと比べ順番変わっている。前は地域医療施設の充実や救急体制が一番多く、今回は果樹・農林業の振興が一番多い。市内では大藤診療所に常駐の医師が入り、市民病院周辺にも幾つか病院が出た。そうしたことが影響しているのか。やはりアンケートが2,000枚から1,000枚になって影響したのかと懸念している。なぜ果樹・農林業の振興が一番多いのか。
- 事務局 職種で見ると第一次産業の方が15%を占めている。2,000枚と1,000枚の違いはあるが、パーセンテージで見るとそこまで変わりはない。それなのに第一次産業がと言うと、ここ10年で農家の方の高齢化が進んでいる。今後10年20年経ったときにどうなるという危機感があるのではないかと。

もう一点、雇用・勤労者福祉施策が2番目に入っているのは、より生活に近い今の経済状況を反映しているのかと思う。市内に働く場がなく、1~2時間かけて働きに出ているという、今の世情を反映しているのかと思う。

産科は別として、東山梨地域には医療機関は沢山ある。塩山市民病院もあり、厚生病院も近くにある。大藤診療所も常駐医を確保出来た。市でも福祉部門、子育て部門には力を入れている。100%とは言わないが職員も努力し、市民の方の意見に耳を傾け、厳しい財政の中で取り組んでいる。今の世情を反映させた答えになっている。
- 委員 人事異動の際に人が途切れてしまうのがもったいなく思う。活動を色々行って来た以上、長続きできる形でない中途で終わってももったいない。こういう会議にしても各委員会にしても、長続きして、引き続いて出来る仕組みが大事かと思う。
- 事務局 先の委員のご意見と通じるところがある。計画を作ったからには継続して実行して行けるよう努力をして参りたい。男女共同参画も重要度は低いと結果にあるが、アンケート自体は利便性に重点が行く傾向がある。人権、

	<p>生涯学習も選ぶとなると低くなってしまふ。だからと言って低いから施策上必要がないわけではない。施策を推進していく上でまちづくりのベースになるものであり、アンケート結果に関わらず力を入れて行きたい。</p> <p>○ 会長 他に何かご意見ございますか。</p> <p>○ 委員 (アンケート) 41ページの保健・医療対策について。モルヒネで効かなくなった癌の痛みを緩和する薬が発見出来たというニュースがある。痛みを苦しんでいる人を救うためにも、市でも病院での研修を行い、やり方を覚え、市の病院の患者を助けて頂きたい。</p> <p>○ 事務局 この場ではお返事できない。市の健康増進課の職員が医師会と定期的に会合を行っているので、会議の中で話題にして頂くよう話をさせて頂く。県への要望も年に何回か出しているの、情報も収集した上で可能であれば取り組んで参りたい。</p> <p>○ 委員 せっかく取ったアンケートなので、総合計画にどう活かしていくかが大事である。どういう風に読み解くか専門的に聞いたら良いのではないか。見直しの時に市民が要望していることをよく読み取り目標値の設定に取り入れてもらえたら有り難い。</p> <p>○ 事務局 今のご意見はまったくそのとおりである。アンケートの自由記述欄にも書かれていたことだが、結果を取って置くだけでなく活用し、広報等で周知して欲しいというご意見があった。今後活用させて頂く。</p> <p>今後の予定だが、前期計画の評価に対するご意見を頂くのは今回で終了としたい。次回は1月上旬から下旬にかけて、成果指標が出た段階で叩き台として示していきたい。資料は事前に送らせて頂く。ご意見を頂き、手を加えたものを並行してパブコメで諮りたい。議会にも説明を行う。その前に可能であれば、基本計画ではない大綱で見直す部分があれば、その部分も行っていければと思う。1月の上旬か下旬というところで開催したい。</p>
<p>会議資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. (資料4) 第一次総合計画 評価調書一覧 平成20年度～23年度 2. 甲州市総合計画策定のためのまちづくりアンケート調査結果報告書 3. まちの特色及び自由意見 4. 甲州市まちづくりアンケート調査 5. 甲州市各審議会一覧表
<p>問い合わせ先</p>	<p>政策秘書課 政策調整担当</p> <p>TEL 0553-32-5064</p>